

細胞デザイン医科学研究所 外部講師セミナー

創薬イノベーションを加速させる

逆算思考と産学連携の新潮流

2026. 05. 28 THU.

時間

17:00～18:00

会場

小串キャンパス
医修館5階セミナー室

講師

地主 将久 様

田辺ファーマ
執行役員・チーフメディカルオフィサー



製薬業界において長年にわたり、アカデミアの研究サポートおよび産官学連携のリーダーシップを発揮。前職のギリアド・サイエンシズでは、メディカル戦略の責任者として実臨床に即したエビデンス創出や未充足医療ニーズの解消に向けた活動を指揮されてきました。現在は田辺ファーマにて、行政・大学・企業の垣根を越えたイノベーション創出に尽力されています。

お問い合わせ

細胞デザイン医科学研究所事務局

☎ 0836-85-3065 (内線: 3065 / 3289)

✉ sh088@yamaguchi-u.ac.jp



RICeD

Research Institute for
Cell Design Medical Science

今後の医学研究における産学連携の活性化に向けて -製薬企業の視点から-

製薬企業で長年アカデミアでの研究サポートや産官学連携をリードしてきた立場から、本セミナーでは、製薬企業が期待するアカデミアでの研究のあり方と期待についてお話ししたい。

最近の次世代医療基盤法に基づくリアルワールドデータ活用の整備、創薬エコシステムの国内整備が進んでいる背景を踏まえ、今後のアカデミア研究には、アカデミア研究の根幹となる創薬シーズ導出や開発、医療への実装を見据え、いわば「逆算思考」で、基礎からTR、臨床研究における一貫性のある研究デザイン設計と、企業サポートを最大限活用できる、創薬研究基盤の整備・推進を期待したい。

基礎研究においては、企業のポートフォリオを俯瞰した上で、優先順位の高い創薬標的の選定、創薬につながる作用機序への仮説設定とデータ創出が重要になり、さらにTR研究への橋渡しを見据えた、中長期的な研究ロードマップの立案が重要。

さらに臨床研究においては、未充足医療ニーズを起点とした研究デザインと実臨床に資する質の高いエビデンス創出が不可欠であるが、企業ポートフォリオ戦略を吟味した上で、適切な研究の提案・策定も念頭に入れておくべき点である。

これらの視点に立脚することで、企業研究所にとっても魅力的な共同研究も視野に入れた進展も期待できると思われる。

製薬企業としては、国内創薬力強化が成長戦略重点項目に位置づけられている今、製薬企業とアカデミア、行政を含めた早期かつ継続的な産官学連携に根ざした研究設計を通して、患者価値の最大化を目指したイノベーション創出に貢献することが重要である。